難波っ子

令和２年度９月号
尼崎市立難波小学校
校長　難波　佳代子

あいさつで心をつなげよう

毎日、校門で全校生と朝のあいさつを交わすことが私の 1 日の始まりです。「あいさつをしよう」と学校でも家庭でも社会でも当たり前のこととして言います。そして、本校の教育目標実現のための「心づくり６項目」の中にも本物のあいさつができる子として掲げています。本物のあいさつとは何なのか・なぜあいさつをするのかを考えてみました。

禅語で言う「挨拶」は、「互いに和みあって」、「相手の心を開き（挨）、その中に自分の心を投げ入れる（拶）こと」という意味を持っていますので、 これを簡単に解釈すると、挨拶する側もされる側も心を開く。 お互いが心を開いて近づき、人間関係を築いていく第一歩、というような意味になるのです。

人との関わりの中で生活している毎日、あいさつは奥深い意味を持っています。こころとこころの架け橋をつくる入り口。自分の心を開いて相手に近づく第一歩。人間関係の全てはあいさつから始まります。あいさつという一言の中に、存在承認・感謝の気持ち・尊敬の気持ち・親しみ・優しさ・心配り・・・・・などが含まれて相手に伝わり、それはそっくりそのまま自分に返ってきます。あいさつができる人は、人間関係が豊かです。学校や家庭・社会を明るくします。そして、物事が円滑に進みます。あいさつには、不思議な力があるのです。

では、どんなあいさつが本物なのでしょうか。形式的に言葉を交わすのではなく、相手の心情を感じ取るとともに自分自身も心を見つめることができて初めてあいさつができたということになるのでしょう。言葉でも身振りでも文章でも、意識して相手にも自分にも気持ちいいあいさつを心がけるとひとりひとりを大切にする温かい学校・家庭・社会を築いていくことができます。学校でも、「はっきりと・相手を見て・自分から・心を届けるあいさつ」ができるよう取り組んでいます。コロナ禍で会話の制限がある中でも、目を合わせて、微笑んで、会釈をすることで、心はつながります。毎朝のあいさつは、私と全校生がつながる大切な時間となっています。初めは心を開かなかった子どももあいさつを続けていくうちに、自分から私と目を合わせ、先に「おはようございます」と心を開き伝えてくれるようになってきました。

こんな時だからこそ、あいさつの大切さを再認識し、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいくことで、心豊かな子どもを育んでいきたいと改めて思いました。ご家庭でもあいさつについてお話してみてください。